



TITLE:

# 支那銀行の畸形的推移 - 特に民國初期の動向について -

AUTHOR(S):

徳永, 清行

---

CITATION:

徳永, 清行. 支那銀行の畸形的推移 - 特に民國初期の動向について -. 經濟論叢 1941, 53(2): 163-179

ISSUE DATE:

1941-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/131582>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 經濟論叢

號二第 卷三十五第

月八年六十和昭

## 論叢

勢力經濟學序説……………文學博士 高田 保馬

先秦經濟思想史序説……………經濟學士 穗積 文雄

支那銀行の畸形的推移……………經濟學士 德 永 清 行

## 研究

ナチス勞働保護政策の原理……………經濟學士 中川 與之助

ベンチュラム景氣理論に於ける貯蓄と投資……………經濟學士 一谷 藤一郎

價格安定政策の資本形成效果……………經濟學士 青 山 秀 夫

獨逸の廣域經濟論……………經濟學士 松 井 清

## 說苑

北支の物價高に就いて……………經濟學士 穗積 文雄

## 附錄

彙報

外國雜誌論題

# 支那銀行の畸形的推移

——特に民國初期の動向について——

德 永 清 行

## 一 偏狹なる出路

支那における新式銀行の萌芽としては外國側設置のものと支那側自設のものとを區別する必要がある。前者は咸豐七年（一八五七年）に麥加利銀行（Chartered Bank of India, Australia and China）が上海に進出したるを嚆矢とし、後者は降つて光緒二十二年（一八九六年）創設されたる中國通商銀行（The Commercial Bank of China）をその濫觴とする。この設立に關しての時間的差異は約四十年であり、これは形式的には支那における新式銀行が外籍銀行によつて先導されたことを示すものである。それは具體的には中國通商銀行が盛宣懷による奏設に當つて匯豐銀行（Hongkong and Shanghai Banking Corporation）其他の章程即ち定款に倣つたことに徴すべきものがあり、更に外籍銀行と競争して支那の國外貿易を發展せしめんとせし意圖の存せし所もあり、在支外國銀行は支那新式銀行の設立機運を刺激醸成したものであつた。<sup>2)</sup> 支那新式銀行は立遅れであり、これが立場を確保すべしとしての創設に至つたものではあつたが、この外觀的な経過は更に掘下ければ本質的には支那側銀行の進路は制約され、これが離脱を困難ならしめたる事態に圍繞されてゐたものであることを知る。即ちその事態とは產業面における支那の遅

1) 山川勇木、清國出張復命書p. 48.

2) 吳承禧、中國的銀行、p. 5.  
Chen Chia Tsün : Das Chinesische Bankwesen, 1938, S. 25.

滯と金融面における外國の先鞭とにおいて近世支那より現代支那への轉換期におけるその特殊的性格をここに把握し得るものをいふ。

支那經濟の實情は産業面からも金融面からも支那新式銀行の發達には積極的條件を阻碍したものがあつたが、然も支那側新式銀行がこの時期において進展したる角度がある。從てそれは坦々たる領域を正常的に進行したものでなく、曲折ある間隙を變則的に進出したものであり、たとひ支那新式銀行が發展をなし得たとしても、それは特殊的な寧ろ畸形的な性格のものとならざるを得なかつたことが一應見透される。

## 二 銀行の濫設

民國成立以前においては、光緒三十四年（一九〇八年）戶部銀行は改稱され大清銀行が一先づ中央銀行としての存在となつて居り、別途においては光緒三十三年（一九〇七年）交通銀行が奏設されたものであつたが、これ等政府系銀行を暫く措いて、支那新式銀行の代表的なるものの動向を見れば大要次の如きものが掲げ得られる。この頃即ち光緒三十二年には浙江興業銀行（The National Commercial Bank, Ltd.）が設立されて居り、光緒三十四年には四明商業儲蓄銀行（The Ningpo Commercial and Savings Bank, Ltd.）次で宣統元年には浙江實業銀行（The Chekiang Industrial Bank, Ltd.）の前身たりし浙江銀行、宣統二年には北洋保商銀行（The Commercial Guarantee Bank of Chihli）が設立されてゐる。前清末季既に、支那側新式銀行は漸次その設立を増加してゐたものであるが、民國以降においては更にその傾向は加重されたかの觀がある。

民國成立以降、大清銀行は清算され、中國銀行が開辦され、交通銀行は存続したるも性格上の變轉が起つて居

り、其他既設のものについては若干の變化が伴つてゐる。

浙江銀行は宣統元年の創辦時の名稱であつて、當時官商合辦を以て設立され、性質としては浙江省立銀行であり、杭州に總行を設けたものであつたが、辛亥革命後、行名を中華民國浙江銀行に改め、民國四年（一九一五年）浙江地方實行銀行の名稱となつた。<sup>3)</sup>同年、浙江興業銀行は先きに創設に際して浙江鐵路公司によりその株式の半數を引受けられたものであつたが、同年浙江鐵路公司が國有となるや、該行は鐵路公司所持株式を他に引受を求めたものであり、光緒三十二年開辦時は總行は杭州に設けられたものを、民國四年章程改訂に際して上海分行を改めて總行とした。

北洋保商銀行は民國九年商業銀行に改組し、<sup>4)</sup>中國通商銀行は先きに英人を聘して經理となしたる如き態度を改め外人行員を次第に解職して行務を完全に自國民により主持せんとするに至り、かくて大々新裝の再出發をなしてゐるが、この頃における新規設立の銀行數は激増してゐることが目立つのである。

民國元年以後の増設狀況は雨後春筍に例へられたる程であり、<sup>5)</sup>歷年開設の銀行數は十七年までに一八五行を計上し得るのであり、殊に當時濫立の激化は歐洲大戰を背景としたものであつた。

第一、支那銀行業の鬱勃たる發展は乃ち最近二十餘年來のことに屬し、民國元年（一九一二年）以前の銀行數は寥々たるもので屈指して計上し得るものであつた。

第二、過ぐる三十餘年の銀行發展の經過にあつて、銀行設立の最盛時期は歐洲大戰後の數年間であつた。<sup>6)</sup>支那側新式銀行設立數の趨勢については右に掲げた吳承禧の觀察と軌を一にせざるを得ないものがある。而してそれと表裏の關係において此の濫設時期にあつては射倖的動因に唆かされたる必然の結果として當時の設立

3) 民國十二年協議訂約して、營業を劃分し、官股を浙江地方銀行と稱し、商股を浙江興業銀行と稱することとなつた。かくて漢口、上海兩分行は商股銀行に隸屬し上海分行を總行に改めた。

4) 宣統二年、華洋商人總資合辦により天津に設立されたものであつたが、内外の

銀行には停業、停頓のものが著しきが目立つのであり、その脆弱なりし一斑を見得るのである。

### 三 列國資本の對支進出

金融資本の擴大は銀行と産業の關聯において銀行には産業より優越的地位を確保せしめたものであつたが、兩者の關係は固より緊密であり、銀行は超時代的產物でなく、産業の發達に伴つて變轉することは支那の場合においても例外をなすものではない。従て支那の産業が遅滯して居り、銀行の發展が遅緩してゐることは次の如くに大要説明づけられる。

列國の對支進出により支那に歐米新規の風が採入れられたことはその進歩的な企業形態を移植したことに現れて居り、金融機關は舊式組織の票號より錢莊に、錢莊より銀行へと進展したけれどもそれには一定の限界が伴つてゐた。列強の進出は製品の輸出と原料の攫取であり、それは商品の賣捌きと資本の投下とを支那市場に要求したものであつた。

財貨の消化と資本の吸收を支那を對象として求めたことは早晚支那經濟の生産發展を促進せしむるにおいて先の投下資本は支那財貨の外國側への受入へと變轉して行くべきものであるが、この種の財貨と資本との交流が圓滑に廻轉せざる限り、列強の財貨と資本は商品進出から更に資本支配への傾向を強めて、通常なる軌道より外れて變則的性質に偏り凝固しつつあつたわけである。

これを外形的推移に徴すれば支那に對する列強の對外貿易はその擴大に従て支那の國內商業資金の需要を増大し國內金融機關も並行的に擴充して行つたのである。併し乍らその活動範圍は内容的には大部分は商品流通過程

株式を償還して、新に民國九年公司條例に依り改組して商業銀行となつた。

- 5) 全國銀行年鑑、歷年開設銀行年別統計細表による。但し改組銀行を含む。  
參照、吳承詒、中國的銀行、附錄一中國各地銀行一覽表。
- 6) 前掲、中國的銀行、p.9 同書刊行は民國二十四年(一九三五年)であるからこ

内に終始し、商業的範圍を超越して産業と密接な關係を發生することが出来なかつた。蓋し先進國の進出が大量の商品と雄厚な資力を以て後進國の領域に浸透してゆくことは、資本主義の持つ進歩的形態を隨伴するものではあるが、商品の側面からは先進國の進出はやがて後進國の民族工業の擡頭に積極的支援をなし難き傾向となり、資本の側面からは後進國の新興産業を牽制せんとするかの機運を強化することとなり、延て金融機構の健全なる擴大を阻止するものであり、この傾向は母國對植民地の關係におけると略々同様なものとなつて現れる。

支那の場合について具體的に觀察すれば支那に對して列國進出の現れざりし以前にあつては或は山西票號の如き或は錢莊の如き舊式金融機關が當時の支那としては必要とし又現存した最重要の金融機構であつた。然るに歐米勢力の侵入以降は先づこの種の地方的性質の濃厚なる票號の如きは新時代要求に適應する能はず山西票號の地位は錢莊に推移し、錢莊も亦現代金融機關の技術と經營に缺如するに因り、地域的擴大の實を擧げ得ずとして、これに代つて資力雄厚、組織嚴密にして普遍的聯絡を持つ銀行が一應職能上の新形態として登場した。かくて支那新式銀行が出現したわけであり、新式金融機關の發生とこれが時代的要求は當初にあつては大體並行して進展したかに見えるが實はこの進路は狭小なるものであつた。製品の推銷と原料の收集は列國の企圖したる對支進出の目標であり、ここに對支貿易の進展に伴ひてこれが補助的介在者として支那金融機構の促進が支援されて來てゐるが、それは外國資本に對して支那の金融機構が有利な存在となり、支那の金融機構としてはその業務經理によつて超過利潤の分配を求め得たからである。外國資本の支那金融機構への援助的態度は如上の領域よりは出で難いものであつたから、外國銀行が對象とせし所は必ずしも銀行の形態においてではなく錢莊の舊態との關聯においても展開したものであり、加之外國資本の支援を受けたる銀行乃至錢莊は外國資本へ隸屬的傾向を加重され

とに云ふ二十餘年來或は三十餘年來はこの建前において遇る。

7) 前掲、中國的銀行、pp. 2—3、何幹之、中國社會經濟結構、pp. 59—60。  
8) 前掲、中國社會經濟結構、p. 60。

ざるを得ず、獨自に構築せし地盤を缺如したものと見るを得るのである。從てこの時期において開辦されたる銀行は一般的事情を追求せば歐洲戰爭の影響による泡沫的存在に止まつたものか、然らずとしても産業發展の基礎に照應し得ざりしものであり、ために概して支那側銀行は當初より脆弱なものであつたことを否定し得ない。

ここにおいて支那側新式銀行の發展阻碍の原因として外國勢力進出の前因後果が吟味されて來たものである。即ちその第一は外國の進出の影響としての支那側新式銀行の設立の機運醸成はたしかに認め得たものではあつたが、これは支那の交換經濟の發展延て支那の商業信用範圍の擴大に併行して考慮さるべきものであつた。然るに列國の進出により支那は半植民地性の羈絆を脱し得ず、民族工業の發展は束縛を蒙つてゐたと見れば、ここに支那新式銀行の發展が遅々としてその進展の限度が劃されるものとなつたのであつた。

第二は一應、新式銀行の設立促進事情があつたとしても一方においては支那側新式銀行の創立以前において右の要求に應ずべく外國銀行の勢力が既に扶植されて居り、他方においては傳統の地盤を持つ錢莊がその調劑に乗出した分野があつた。從つて商業金融の擴大が支那側新式銀行の發展に關し領域は甚だ狹小のものといはねばならなかつたのである。<sup>9)</sup>

要するに外國資本は特殊な課題を持つてゐたものであり、それは自國の製品についての支那市場の獲得を支援し、自國の資本についての支那市場の確保を支持せんとする立場を執つたものである。<sup>10)</sup> 製品の推銷と原料の收集は直接交換の形態を採らずして、第三者を介入せしめたものであり、外國商品の支那内地への進入並に原料の支那内地より外國への搬出なる流通過程において在支外國資本の支配機構を擴大し、支那側の介在者はその任務遂行によつて超過利潤の分配を受けたものであり、こゝに支那側の存在が被支配的にならざるを得なかつたわけがある。<sup>11)</sup>

9) 前掲、中國の銀行、pp. 3—4.

10) Chen Chia Tsün: a. a. O. S. 45.

11) 前掲、中國社會經濟結構、p. 60.



外國勢力の浸透は資本の進出により強化されたものであつたが、具體的には鐵道への投資、航運の聯絡、在支外人工業の扶植並に輸出入貿易への資金援助へ夫々擴大強化され、その結果は投資國と受資國との市場關係の發展を推進し、雄厚なる資力の支配は第三者即ち買辦の介在を経由して外國商品の支那への輸入を増大し、支那原料は買占められ、從て農產品販賣價格の操縱、農民副業への打撃、農村手工業への重壓といふ一聯の關係において推移した。かゝる手工業についての商業資本の發展過程は二つの段階を経出したといふが、それは交換支配過程より生産支配過程へ進み、それが市場の擴大、生産の發展を基調にして商業資本による手工業の全過程支配が達成され、かくて商業資本は工業資本に轉移して、工業的發展段階に到達すべきである。手工業的生産から工場生産への推移に當つては先進國においても後進國においても共に過渡的犠牲が拂はれるとしても、支那の場合は工場生産そのものが不振であるが、その推移の角度を取上げて見ても先進國の先例に比して深刻であつたのは手工業の淘汰過程が外國勢力の支配關係において展開したことに基因する。<sup>12)</sup>列國の資本主義はそれ〴〵自國にあつては、その歴史的任務として封建狀態を解消せしめてゐるものであるが、支那における經過は全く相反して、外國資本は一見して支那においてはこの作用を呈してゐない。外國勢力の進出は進歩的な形態を移植して老朽陳腐な方法は廢止し、新式の工作過程と工作能率を活用してはゐるとしても、封建勢力をそのまゝ便乗的方便に利用して自國資本の分野を擴大したものである。母國より植民地への資本輸出は植民地經濟に往々にして進歩的變革を達成せしめなかつたものであり、列國の對支進出は所謂半植民地性の制約を課したものであり、支那の工業化は促進さるゝ能はずして、工業化そのものを歴史的任務とする資本本來の發展は支那側においては正常に進展されなかつたのである。<sup>13)</sup>

12) 前掲、中國社會經濟結構、pp. 43—45.

13) 前掲、中國社會經濟結構、pp. 36—38.

列國の資本輸出は資本主義に隨伴する進歩的な要素乃至形態として近代的生产方法を支那に移植してはゐるが、外國資本によつて支那の交換過程より生産過程に至るまで支配を貫徹したるにおいて支那民族工業の發達はに桎梏となつたものであつた。<sup>14)</sup>

#### 四 外國銀行の支配と買辦の生成

在支外國銀行の組織上の著しき特徴も亦この角度において取上げ得るのである。列國の對支投資は外籍銀行を主要なる對象としたものではなく、産業部門の各般に及ぶけれども、在支外國銀行が外國資本の支那に於ける支配機構の中心たりしは勿論である。<sup>15)</sup>「外籍銀行既是很早的即以一種殖民地銀行的姿態君臨中國」外國銀行は既に早くより一種の殖民地銀行の姿態を以て支那に君臨したとして、各種業務の經營は受動的なものであるから發動的のものに及び資金の吸收から資金の運用に至り、その結果にあつてもその作用にあつても外國銀行は支那新式銀行の正常なる發展を阻碍したとは屢々説かれる所である。<sup>16)</sup>蓋し外國資本の進出が不平等條約を背景として種々の政治借款に經濟借款に投資關係を結成したについては大部分はこの鞏固な金融機關を經由して實施されたものと見てゐるからである。<sup>17)</sup>然も外國勢力乃至資本の對支進出は支那側に利用的存在を必要としたものであり、外國商會乃至外國銀行が支那人仲介者を業務の遂行に使用したのはこの仲介者の能力の利用においてであつた。こゝに外國商會乃至外國銀行の發達がかゝつたものと共に、仲介者は一定の給與及び業務完遂における支給を受領するわけであり、こゝに所謂買辦組織 (Comprador system) の機縁が開けたものである。<sup>18)</sup>

支那は資本に窮迫して居り、同國經濟進展のためには資本の受入を當然必要としたるは外國側も支那側も均し

14) 前掲、中國社會經濟結構、pp. 28—29.

15) 前掲、中國的銀行、pp. 105—106. Chen Chia Tsün: a. a. O. S. S. 45—46.  
C. F. Remer, Foreign Investment in China, 1933, pp. 69—70.

16) 前掲、中國的銀行、pp. 107—108.

く承認した所であつたが、外國側は支那の從屬性への措置において支那側はその獨立性への保持においてであり對策上には全然相反するものがあつた。<sup>19)</sup> 外國側の意圖は外國資本による支配機構の強化とすれば、支那側の要請は自國資本の第乏を國際的協力においての平面的立場にあつて接受せんとするものであり、國際的協力不可能なりとせば、純然たる商業的投資として外國側國家乃至個人よりの受入としてゐる。外國側の投資態度は交換支配過程より生産支配過程への擴大であり、支那側の受資態度は商業的性質において防止せんとしたものであり、前者の支配的進出は後者の自助自存の方策と全然相反するものであり、その間の協調的方策については求められべきものがあつたけれども支那側の甚しき誤解によつてこれが具體化の曙光は得られざるまゝに推移したといへるのである。<sup>20)</sup>

外國資本の支那への進出は大部分は在支外國銀行を経由したわけであり、外國銀行の支那における活動はその内容及び作用が甚だ複雑となつてゐるが、支那側銀行との關聯において發生した要約は次の如きものである。支那側銀行は發生の當初からその發展の過程を通じて不平等關係において推移し、外國銀行が操縱的地位を握り、支那銀行が抑壓されたまゝの發展であつた。

支那側の金融機關は生産上の基礎付に缺如したるため、更にそれはたとひ商業上の地盤を保持したとしても外國銀行の優越的立場から壓迫を蒙らざるを得なかつた。支那銀行は外國銀行のための「當差」即ち役動めとなり、外國銀行のために買辦の地位に立たしめられたまゝいはず支配と隷屬の主從關係において商業銀行としての進展となつたものであり、<sup>21)</sup> かくて支那側新式銀行は買辦的存在として進路をとり又とらざるを得なかつた。併し乍ら外國銀行と支那銀行の關聯についても以上の如き外部的事實のみを支那側銀行をして畸形的推移に至らしめし

17) 前掲、中國銀行、pp. 105—108.

18) Chen Chia Tsün: a. a. O. SS. 14—15. 前掲、中國社會經濟結構、p. 60.

19) Chen Chia Tsün: a. a. O. S. 46. 作田博士、世界經濟學、pp. 192—196. pp. 321—323.

因と斷することは出来ない。

外國資本の支那への進出は支那の交換過程から生産過程に至るまでに支配を及して支那の民族工業を牽制したといふ。これを外國資本の在支分布について見れば、生産面についての支配關係は牽制的な阻止作用においてであり、生産事業には極めて小部分が投下されたとゞまり、然も生産事業上の投資におけるものも、農礦業、交通業、銀行業乃至は若干の輕工業に限局されたものであり、重工業に投下されたものでなく従て鋼鐵業、燃料工業、機械工業の如き存在に乏しい。

大部分は非生産的投資であり、甚しきに至つては生産破壊の役割に投下されたものであつて、列國は支那を自國の要求に適應せしめんとし、ために支那は久しく工業國の附屬地たらざるを得なかつたといふ。<sup>20)</sup>かくて支那は長く中世的經濟段階より脱出し得ずして、半開的狀態に停滯してゐる事實があり、或は企業大規模にして收入多大なるものが支那資本でなく外國資本によるものなるの事實あるは吾人も認むる所ではあるけれども、外國資本による支配機構の實施されたる舞臺としての支那經濟がこれについて防衛乃至咀嚼する能力にかくまで微力であつたかについては問題が残る。列國進出の下に形成されたる支那の半植民地的地位についてこれが半植民地性を解消せしめ得ず逆にこれを恰も植民地化せしめたるに對應すべき支那側の内在的特有事情を解明しておかなければならぬ。

## 五 封建制經濟の殘滓

支那經濟が世界經濟の一環として登場した時には列國資本の制覇の影響を蒙つてその掣肘下に半植民地として

- 20) Sun Yat-sen, The International Development of China, 1929, pp. 231-237.  
李銘、支那現下の經濟政策、國際評論、昭和十年四月號、前掲、中國社會經濟結構、P. 97.  
21) 吳承禧、中國的銀行、pp. 14-15, pp. 104-106.

の進展を開拓せざるを得なかつたものであり、この外部勢力と結合したものの、みが政治的にも經濟的にも存続し或は進展し得たものであり、國內的には同國の支配的立場を握つたものであつた。支那の國內的趨勢としては既に前世紀の中頃より以降は封建的生産は破綻し始めて居るが、封建的勢力の殘續があり、こゝに支那經濟が資本主義制經濟でもなく、封建制經濟でもなく、列國經濟の下に一種の畸形的混合體となりたるものが取上げられ、構成の要因に程度の差はありとしても、封建遺制、資本主義、國際資本主義の複合錯綜した制約下における支那獨自の特殊的進化法則を生成すると解せらるゝことゝなつたのである。現代支那經濟を封建制度の殘滓が支配的となすもあり、或は支那封建制度の歐羅巴のそれとの相異を指摘するもあり、更に支那經濟は既に資本主義制の過程に入りりとするもあり、認識の相異はあるが、單一なる概念を以てはその意義を表し得ないのであり、支那經濟の中には三種の勢力があり、それが相矛盾してゐる複雑な形態を把握しておかなければならない。<sup>24)</sup>

封建勢力の殘滓と列強資本主義勢力の進出と民族資本家勢力の新興とは相互に矛盾した三種の勢力ではあるが、支那經濟社會の全般に亘つて畸形的態様を形成したといはれる程に支那經濟社會の全機構の各部門に浸透し支配してゐるのであり、金融業の狀況においても例外をなすものではない。もつともこの三種の勢力には優劣があり、固より外部勢力が優位を占めたものであつて、政治的支配機構は封建勢力が外部勢力に直接にか間接にか結合するによつて、更に民族資本勢力がこれに迎合したるものにおいて聯合政權を結成したる如くに、金融の側面においても傾向を同じくしたものである。<sup>25)</sup> 前掲支那の半植民地性において觸れた如く、支那銀行は産業發展の地盤を缺いたものであり、支那側商工資本の銀行經營に参加し聯合組成したる部分は劣弱であつて、支那側資本として銀行資本に參割したものは軍閥、官僚、地主の投資の占むる割合が大であつて、軍閥官僚が往々、支那銀

22) 前掲、中國社會經濟結構、pp. 28—29. Chen Chia Tsün: a. a. O. S. 17.

23) 前掲、中國社會經濟結構、p. 37.

24) 陳開夫はこれを暫定的に植民地的資本主義經濟體系と呼んでゐる。陳開夫、上年中國經濟恐慌的總結及今後動向、錢業月報、第一六卷第一號、民國二十

行經營にあつても、支配の地位を占むる所となつた。かくの如くして支那側新式銀行は表面上新興民族資本を代表するが如きものありとしても内容上は外國資本への隸屬的構成か、自國資本としても軍閥官僚の封建勢力が變質して組成してゐるわけであり、外部的に外國勢力が浸透し内部的には封建勢力が殘續し、民族資本の發展を阻碍して居り、支那の所謂資本家階級はそれ自體では絶對的支配力は有しないものであつた。<sup>25)</sup>

外國資本の對支進出は支那の産業發達に阻碍的作用を持つたものとせば、支那の産業を前提として期し得べき經濟發展は必然に制約されたわけであり、支那側新式銀行もこれが束縛下にその伸展力を阻止されたわけである。然りとせばこの角度において支那側新式銀行は農業銀行乃至工業銀行としての機能は著しく制約されたものであり、支那側新式銀行の進路は商業金融の範疇を脱し難いわけであつた。

軍閥、官僚、地主等の資本投下の方向は、産業方面の進路が狹小なりしたために、土地收買か銀行投資となつたものであり、支那新式銀行の背景は支那独自の資本系統におけるものを求めても自ら産業開發の機能を制約されたものであつた。封建勢力の金融への介入はたゞに銀行資本金に投下されて株主としてのみでなく、自己独自の銀行を開設したものもあり、この種軍閥、官僚の資本が或は銀行を或は錢莊を自設して、一省、數省或は數縣に割據して自己の財源を鞏固にすべく劃策したわけである。此の種の傾向においては省立銀行或は市立銀行にその代表的分野が取上げられるのであり、苛酷な雜稅の徵收に資するのみでなく、貨幣についての搾取が紙幣について行はれたわけである。この種封建遺制の金融上における殘續は金融機構が地域的に擴大されて行くことそれ自體早晚封建勢力を衰頽せしむるものとなるが、經過的には省市立銀行の發行制度紊亂となつて居り、更にこの紙幣發行の利は封建勢力下の銀行を濫設せしめし誘因となつたものである。<sup>26)</sup><sup>27)</sup>

五年一月十五日、p. 1.

25) 王永志、中國金融資本論、pp. 2—3.

26) 前掲、中國金融資本論、p. 4.

27) 前掲、中國金融資本論、pp. 4—6.

## 六 錢莊の分野と新式銀行への關聯

支那側新式銀行は概言して商業金融としての進路を持つと雖もここには既に外國側銀行が進出して居り、又支那側としては錢莊の地盤があり、支那側新式銀行はこの鼎立關係の摩擦を切抜けて自身の地位を確保しなくてはならなかつた。外國側銀行に封建勢力が結合してゐることは既述した所であり、支那側新式銀行における所謂金融資本とでも云ふべきものの要素は外國勢力の延長であり封建勢力の殘滓であつたことにも若干觸れし所である。今ここに錢莊を見るに、錢莊は大部分は商業資本の代表であるとしても、それ自體が根本的には封建遺制としての金融勢力であることは自明のことである。<sup>29)</sup>

外部的な要因からは民族工業の基調を伴ひ得なかつた商業金融として、然も束縛を受けた進路について支那新式銀行に即して以上の如く見たのであるが、そこには内部的な要因として支那新式銀行の健全な進展を阻止する條件が伏在してゐた。然も新式銀行が進出したとせば、それはかかる制約に屈從したか排除して來たわけであり往々にしてその進路は脆弱なるものであり、更に不合理なものであつた。支那新式銀行は發生史的に外國資本の支配より離脱し得なかつたものであり、この制約下に進路を求め得たとしてもそこには錢莊との對立があつたことも若干解説した所である。

錢莊が封建的殘滓の傾向における金融組織とすれば銀行は新興の民族資本階級を代表する金融機關であるべきであつた。支那の實狀は銀行は外國勢力の隸屬において發展を劃したものであり、錢莊は封建勢力の傀儡として存続したものであると、一應系統別に分ち得る。然も、事實上銀行にも錢莊にも共通性があり、外國勢力の買辦

28) 田中忠夫、貨幣制度上より見たる支那社會の封建性について、東亞經濟研究第十四卷、第一號 pp. 55—57.

29) 前掲、中國金融資本論、p. 5. Chien Chia Tsün: a. a. O. S. 32.

30) Chen Chia Tsün: a. a. O. S. 15.

的役割を果たし、封建勢力の手足的任務を果たすにおいて進路を開拓したものである。封建勢力と外國勢力の兩者自體が別個の存在であり得なかつたと同時に、錢莊も封建勢力よりは固より外國資本よりも超然たり得たものでなく、新式銀行は外國勢力より牽制を蒙り封建遺制よりも隔離されたるものではあり得なかつた。<sup>30)</sup>

## 七 人的結合と地緣的紐帶

支那の場合においては國際資本主義の潮流に乗じて外國資本家の勢力が扶植されたとしても外部的に採入れらるべかりし資本主義的要素乃至形態は、内部的に除去さるべかりし封建要素乃至形態との間に背馳の進行でなく寧ろ交錯したる若干の側面のありしことに支那經濟社會の現象が留意されなければならない。<sup>31)</sup>

支那側新式銀行は外國勢力の支配により、封建勢力の牽制により、その進路が偏狹なものとなつて居り、それは商業金融としての分野に進展を續けたものであることには既に觸れて置いた。これ等内外の勢力と結合關係にある支那銀行としての動向をここに見得るわけであり、これ等勢力と別個に支那資本階級により設立された新式銀行も固より存するけれどもそれは政治的支配關係におけると等しく、獨立的な新式銀行の發展は微力なものであつた。これに反して内外勢力との結合關係にある新式銀行にあつては進路は狹小であつたとしても、機構上の強韌性があるから、ここを簡略に説明しておかなくてはならない。

支那新式銀行の進路には外部的からは外國銀行の雄厚な存在があり、内部的からは錢莊の傳來の地盤があつた。一方これは支那側新式銀行の發展を阻止すべき事情でもあつたが、同時にこれ等は支那側新式銀行の發達について導因となつたものであつた。外國銀行に對して支那側金融機關は銀行にしても錢莊にしても從屬的であ

31) 前掲、中國金融資本論、pp. 7—8。 前掲、東亞經濟研究、第十四卷、第一號 p. 56。



り、間接的に買辦の作用を果たしたものであるが、支那側金融機關の中にあつては、その淵源早き錢莊は新式銀行にとつては錢莊業經營者の經驗と技術の援助を必要とした所であり、錢莊側よりもこれに應じたものであつた。<sup>33)</sup> 支那側最初の近代銀行として出發した中國通商銀行の最初の經理即ち支配人は當時上海市で盛名ありし承裕錢莊の經理、謝綸輝氏なりし事實に徴すべきものがある。この種の銀錢業間における人的結合關係は錢莊の股東（株主）又は經理（支配人）が時に銀行の經理又は董事（理事）であるといふ意味における結成であるが、かかる人的結合關係は外籍銀行と錢莊との間にも結成したものである。外籍銀行の買辦は時に錢莊の股東又は錢業界の有力者であるといふ如きにおいてである。<sup>34)</sup>

均しく人的結合關係と稱するも外籍銀行と錢莊間のそれは錢莊の從屬性においてであり、錢莊と支那銀行間のそれは當初にあつては錢莊の指導性においてであつた。當時鼎立關係にありし外國資本、封建遺制、新興資本家の夫々の勢力の反映上必至の成行であり、これに逆らつた存在は淘汰へと運命づけられたからであらう。

更に人的結合關係において注目し値ひすることは支那金融業の關聯にあつて錢莊と銀行との人的結合が支援的なものから平面的なものへ推移して行くは當然なこととしても、銀行と錢莊との間の人的關係は地緣的紐帶による密切なる結合があつた。吳承禧によれば後に廢兩改元を繞つて大きな存在であつた秦潤郷の錢莊における關係と銀行における關係をはじめとして浙江系の事例が掲げてあるが、氏も云ふ如くに、この種系別的聯絡は浙江系においてのみ進展したものではない。<sup>35)</sup>

これ等の傾向は云はゞ自己保全のための強固なる基礎構築であり、相互に聯絡し、相互に提携したものであり排他的な傾向を持つものではあつたが、限局された範圍では強韌化に努めたものといへる。されば封建勢力の殘

32) 前掲、中國的銀行、p. 129.

33) 內國重修記によれば、上海の錢莊は乾隆時代に起り、今日に至るまで二百餘年の歴史を有すと云ふ。內國重修記（內國は上海南北市の錢業總公所）の抜萃については施伯鈞、錢莊業、p. 7, pp. 9—10. 吳承禧、中國的銀行、p. 127參照。

洋が金融の側面に乗出し、錢莊は封建的勢力そのものの繼續としても、新規の銀行も封建制度の延長としての傾向が濃厚となつてゐるのである。従て錢莊の没落乃至疲弊が傳へられたる先頃の事態に即しても、その出資經營者の興廢を全面的に惹起したものでない。疲弊乃至没落したものは錢莊であつたとしても、その出資乃至經營の若干部分は近代銀行に投下されてゐたものである。

後來支那金融業の近代化趨勢を語るものあるに至つても、新規な新興勢力としてでなく、その背景には大體の一貫性があり、具體的には上海における重要銀行は浙江、江蘇出身者によつて支配されたる如きをその一斑として見る事が出来るのである。<sup>35)</sup>産業發達の基礎を伴はなかつた支那の新式銀行は外國銀行との關聯において、封建制の關係において、それが恰好なる結合關係を結成し得たる向きにおいて大體の進路をとつたものと見ることが出来るが、然もその開拓地域は産業と既存金融機關との制約下に新式銀行は沿海の省に多くを見たものである。<sup>37)</sup>

## 八 結

外國勢力の支那への浸透は新規の企業形態を採用せしめたわけであるがそれは往々にして基礎脆弱なものとしての移植であり、支那側新式銀行においても例外をなすものではなかつた。新規の企業組織に正常的にして恒久的性ある發展を可能ならしむるには、たとひ外部的要因が歪曲するものであつても支那側の受容の能力如何がその矯正を可能とならしむる條件となり得るものであるが、これについては既に觸れた所である。内外要因との關聯においてその從屬的乃至妥協的限界内にあつて支那新式銀行が發展したとせば、變則的な出路の下に隸屬的に進

34) 前掲、中國的銀行、p. 127, pp. 129—130.

35) 前掲、中國的銀行、pp. 127—128.

36) 山上金男、浙江財閥の基礎的考察(下)、pp. 14—18.

37) 前掲、中國的銀行、pp. 13—14.

展したものとなるべく、これが限界を超えて正常的な存立をなすべく努めたとして若干獨自的な進路をとつたとせば、支那の場合その獨自性は微弱なものといひ得られる。正常的にして、恒久性あり、然も獨自性濃厚な進路をとり得るためには産業の發達を基調としたものでなければならぬ。これに缺如したる支那側新式銀行の進路は變則的であり、概ね從屬性濃厚なものとならざるを得なかつた。然もこの進路におけるものは變則的なりとしても又從屬的なりとしても局部的には恒久性が求め得られたことを一考すべきにまで以上において言及した。

要するに外部勢力との接渉面においての從屬的進展とは外國資本が支那銀行を利用するにおいてであり、支那銀行はその間の業務遂行において超過利潤の分配に預るによつての進路であつた。内部勢力との接觸面において從屬的進展とは地方乃至中央財政危機を繞つての進路を辿つたものであつた。これを換言せば支那側銀行の進路は從屬的發展であり、或は若干獨自性の進路を求めたものがあつたとしても、概言して高利貸資本の運用であり、正常的な銀行發展の領域を開拓し得たものではなかつた。かくてここに特殊な原因を保持し得たものが持續し得たわけである。

これを業務上に徴して支那銀行資本發展の内部的條件として二つの特質即ち一は地産投資について、他は公債投資について夫々を具體的に説述するを得るが、ここではただそのことだけを附記して結びとする。